

1. 日時 令和6年10月21日(月)3校時

2. 主題名 みんなが楽しく

3. 教材 「ぼくのボールだ」

4. ねらい C 公正・公平・社会正義

みんなが楽しく過ごすためには、1人1人の思いや願いをみんなで大切にしなければならないことを理解し、誰に対しても公平に接しようとする態度を育てる。

5. 主題設定の理由

集団や社会において公正、公平にすることは、私心に捉われず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方をさけるように努めることである。しかし、社会正義の実現を妨げるものに人々の差別や偏見がある。人間は自分と異なる感じ方や考え方、多数ではない立場や意見などに対し偏った見方や接し方をする弱さを持っている。個人が当たり前だと思っている言動の中に気づいていない不公平が存在し、それが人間関係や集団生活に支障を来し、いじめなどにつながることを理解させ、誰に対しても分け隔てせず公正、公平な態度で接することができるようにすることが大切である。

6. 教材観

本教材は、休み時間のドッジボールでトラブルが起こり、楽しく遊べなかったという話である。たかしくんが拾いに行ったボールを、「ぼく」は勝つために横取りしてまさとくんに渡す。しかし、たかしくんは「ぼくのボールだ。」と言って泣き出してしまう。みんなも集まってきて、「ぼく」は「まちがったことをしたのかな」と思い始める。ドッジボールで勝つことに固執したり、友達の思いを軽視したりして、楽しく遊べなかったという姿は、日常の子どもたちの姿と重なる。みんなが楽しく遊べなかった理由を考えることで、誰に対しても公正・公平に接しようとする道徳的实践意欲と態度を養うのに適した教材である。

7. 指導観

指導にあたっては、まず登場人物の立場を説明し、教材への導入を行う。挿し絵や登場人物のセリフを黒板に貼ることで、それぞれの発言に着目できるようにする。次に、児童が「ぼく」と「こうじくん」、教師が「たかしくん」の役になり、ロールプレイングを行うことで、「たかしくん」と「ぼく」のドッジボールに対する気持ちの違いがあることを押さえる。そして、「ぼく」の行動のどういう点が間違っていたのかを主発問として考えさせる。児童の意見に対して問い返すことで、不公平さの存在に気付かせたい。最後に、自分自身の生活を振り返り、みんなが楽しくするために気を付けたいことを道徳ノートに書かせ、発表させることで、誰に対しても公正・公平に接しようとする道徳的实践意欲と態度を養いたい。

8. 児童観

本学級の児童は、休み時間にみんなで楽しく遊ぶことができる。しかし、係活動では、自分の係りは積極的に行うが、自分にあまり関心のない係りには進んで参加しづらい。また、自分がしたいことを優先し、周りの友達のことを考えて行動することが難しい児童もいる。仲の良い友達同士で

集まってしまうことが多く、あまり学級活動などに積極性が見られないのが現状である。

9. 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	(1)登場人物の立場を確認する。	○ドッジボールのどんなところが楽しいでしょう。 みんな (ぼく・まさと・こうじ) 勝ちたい まさとにボールを回す作戦 たかし ボールを投げたい ボールを取った人が投げる	・ドッジボールのルールを理解する。 ・「ドッジボール」の話として紹介し、後で教材名を知らせることで「ぼくのボールだ」というたかしの強い思いを感じ取りやすくなる。 ・人物の立場を教師が簡潔に説明することで、教材の内容を理解しやすくなる。
展開	(2)ロールプレイをする。 (3)教材を読んで、交流する。 ・ノートに書く ・全体で交流する	○ボールを拾った時のたかしくんの気持ち 実際に、ボールを拾った場面の「ぼく」「たかし」「こうじ」の会話をロールプレイングする。 ○たかしくんに、「ボールは取った人のものだよ。ぼくは自分で投げたいから取りに行ったんだ。」と言われた時、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・勝ちたくないの？ ・つまらなかったんだ ・ぼくの考えとちがうんだ ◎ぼくの行動のどういう点がまちがっていたのか。 ・勝手に決めたこと ・たかしくんの気持ちを聞かなかったこと ・ボールを公平に渡さなかったこと ・勝ちたいから強い子だけにボールを渡したこと	・「どうして？」などと問い返して理由を考えさせることで、不公平さの存在に気付けるようにする。 ・意見が出にくい場合は、他の児童の意見を参考にさせる。
終末	(4)本時の学習を振り返る。 ・ノートに書く	○みんなが楽しくするために、自分が気を付けたいことは、どんなことでしょうか。 ・自分のことだけでなく、みんなの気持ちを考える ・みんなが楽しめるようなルールを決める ・みんなが納得できるように話し合って考える ・公平、平等	・ドッジボールに限らず、どんな場面においても「みんなが楽しく」するのは大切であることを確認する。 ・自分たちの経験を振り返って自分事として書かせる。

[illegible]